

共に生きる社会を目指して

庄司 海音

僕たちが暮らす社会には、さまざまな人がいます。年齢、性別、国籍、健康状態や障がいの有無、生活の状況も人それぞれです。けれども、誰もが同じように生きやすく、安心できる社会をつくることは、僕たち全員にとって大切なことだと思います。僕はそのために必要なのか「福祉」という考え方だと学びました。

福祉とは、高齢者や障害のある人を助けることではありません。すべての人が幸せに暮らせるように支え合うことです。たとえば駅や公共施にスロープやエレベーターがあるのは、車いすを利用する人やベビーカーを押す人が使いやすくするための工夫です。こうした設備は、特定の人のためだけでなく、誰にとっても便利なものです。

僕は日常生活の中で、席を譲ったり、困っている人を見かけたら声をかけたりする光景

を目にすることがあります。そのような行動はとても小さなことかもしれませんが、受け取った人にとっては大きな助けになるはずで、相手の立場になって考え、今、自分にとできることを行動に移すことが、福祉の第一歩だと思います。

また、福祉は特別な資格や知識がなくても誰でも関わることもできます。たとえば、道に迷っている観光客に道を教える、買い物に困っている人に声をかける、学校や地域での清掃活動に参加する、こうした行動も立派な福祉です。

現代の日本では、高齢化や少子化、経済格差など、さまざまな課題があります。それらは一人の力では解決できませんが、地域や国全体で支え合えば、より良い社会をつくることは可能です。福祉の心を持った人が増えれば、孤独や不安を抱える人も減っていくはずで

僕が思う「共に生きる社会」とは、互いの

違いを受け入れ、必要なときに支え合える社会です。これからも、自分にできる小さな福祉の実践を大切にしていきたいと思います。そして、僕の行動が周りの人に広がり、少しずつでも社会を温かくできたらうれしいです。福祉は、誰かのためだけでなく、自分のためでもあります。助け合いの輪の中で、僕たちは安心と幸せを感じることが出来ます。そんな社会をつくるために、これから私も福祉の心を持ち続けたいです。